

バーコードリーダー
取扱説明書

CM-700 シリーズ
CM-800 シリーズ

改訂記録	
改訂番号	改訂日
Rev.1.0	2012/08/01（初版）

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1. 本書の内容に関しては、将来予告無しに変更することがあります。2. 本取扱説明書の全部又は一部を無断で複製することはできません。3. 本書内に記載されている製品名等の固有名詞は各社の商標又は登録商標です。4. 本書内において、万一誤り、記載漏れなどお気づきのことがありましたらご連絡ください。5. 運用した結果の影響について、責任を一切負いかねます。 |
|---|

製品保証と注意事項

「保証期間」

本製品の保証期間は、ご購入日より1ヶ年とさせていただきます。

「保証範囲」

保証期間中に納入者側の責により故障を生じた場合は、納入者側において機器の修理または交換を行います。

但し、保証期間内であっても、次に該当する場合は、保証対象から除外させていただきます。

1. 需要者側の不適切な取り扱いならびに使用
2. 故障の原因が納入者以外の事由に場合
3. 外装部品の損傷
4. 需要者側で改造・修理を行った場合
5. 天災地変による場合

尚、ここでいう保証は納入品単体の保障を意味するもので、納入品の故障により誘発される損害はご容赦いただきます。

「修理」

修理は全てセドパック方式で行います。現地での出張修理などは一切行いません。

「電波障害自主規制について」

本装置は米国通信規制「FCC 第15条補足J」による計算機器制約条件に適合しております。商業環境での使用において妥当な保護措置がなされています。しかし、住宅地域でのご使用は妨害（ラジオ・テレビなどの受信障害）が起こることがあります。

「レーザーに関する注意」



CDRH Class 2

バーコードレーザーには、CDRHクラス2準拠(最大出力1mW以下)のレーザーを使用しています。レーザー照射窓を覗いたり、レーザービームを直視することは絶対にしないでください。

「その他」

- 納入品の価格にはサービス費用は一切含んでおりません。
- 本製品は、台湾工場（一部、中国工場）にて製造しております。



Blank page

安全上のご注意

安全にお使い頂くために必ずお守りください。

警告・注意表示は、製品を安全に正しくお使い頂き、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぐために守って頂きたい事項を示しています。

その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから、本文をお読み下さい。

	<p>警告 この表示を無視して誤った取り扱いをすると死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。</p>
	<p>注意 この表示を無視して誤った取り扱いをすると傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷の発生が想定される内容を示しています。</p>

絵記号の意味

	<p><注意> 一般的な注意、警告、危険の通知を示しています。</p>		<p><禁止> 一般的な禁止を示しています。</p>
	<p><発火注意> 発火の可能性が想定されることを示しています。</p>		<p><水気禁止> 風呂、シャワーなどの水気の多い場所での使用を禁止することを示しています。</p>
	<p><感電注意> 感電の可能性が想定されることを示しています。</p>		<p><分解禁止> 製品の分解や改造を禁止することを示しています。</p>
	<p><破裂注意> 破裂の可能性が想定されることを示しています。</p>		<p><ケガ注意> 指を挟まれるなど、ケガを負う可能性が想定されることを示しています。</p>



警告

■本装置を絶対に分解しないで下さい。 ・故障・感電（火災）の原因になります。



■直射日光が長時間当たる場所、粉塵の多い場所、湿気が異常に多い場所、水を扱う場所、暖房機器などの発熱物の近くでは使用しないで下さい。 ・故障・感電（火災）の原因になります。



■ケーブルに重いものを載せないで下さい。また、ケーブルをねじったり、強く引っ張ったりしないで下さい。 ・ケーブルの被覆破れや断線が発生し、故障・感電（火災）の原因になります。



■引火性のガスや発火性の物質のある場所及び薬品や化学物質などを扱う場所では、絶対に使用しないで下さい。 ・火災・爆発・故障の原因になります。



■故障した状態のまま使用しないで下さい。異臭がする、煙が出たなどの異常が生じた時は、すぐに接続している機器の電源をOFFにしコネクタを抜いて下さい。 ・感電（火災）の原因になります。





注意

- | | |
|--|--|
| <p>■使用可能な温度・湿度内で使用して下さい。</p> | <p>・故障の原因になります。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> |
| <p>■濡れた手でケーブルの接続や取り外しを行わないで下さい。</p> | <p>・故障・感電の原因になります。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> |
| <p>■長期的な振動（バイクの荷台や自転車での移動）や強いショック（落下）を与えないで下さい。</p> | <p>・故障の原因になります。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div> |
| <p>■温度が激しく変化する場所（夏場の車内）や熱器具など熱を発生する物の近くに放置しないで下さい。</p> | <p>・装置のケースが変形したり、故障の原因になります。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div> |
| <p>■不安定な場所（棚など）でのご使用や保管は避けて下さい。</p> | <p>・不用意な落下による故障やけがの原因になります。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> |
| <p>■揮発性の高い有機溶剤（シンナー・ベンジンなど）や薬品、化学雑巾で拭かないでください。また、殺虫剤を吹きかけないで下さい。</p> | <p>・ケースの変形や変色の原因になります。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div> |

Blank page

目次

1.	はじめに	1.1
1.1	ご使用上の注意	1.1
1.2	梱包内容の確認	1.1
1.3	ケーブルの取り付けと取り外し	1.2
1.4	インデクータ	1.3
2.	PCとの接続	2.1
2.1	RS232C インターフェイス	2.1
2.2	キーボード インターフェイス	2.2
2.3	USB キーボード インターフェイス	2.3
3.	バーコードの読み取り操作	3.1
3.1	バーコードを読み取る	3.1
4.	パラメータ設定	3.1
4.1	システムモード	3.1
4.2	バーコードリーダーの簡単セッティング	3.2
4.2.1	RS232C インターフェイスの初期化	3.2
4.2.2	キーボード・USB キーボード インターフェイスの初期化	3.3
4.2.3	プリアンプル/ホストアンプルの初期化	3.5
4.3	ブザー音の設定	4.10
4.4	キーボード/USB キーボード インターフェイスオプションの設定	4.11
4.4.1	CAPS ロックの設定	4.11
4.4.2	数字データ送信方法の設定	4.11
4.4.3	キーボード送信速度	4.12
4.4.4	DOS/4 ノートブックオプションの設定	4.12
4.4.5	ファンクションキー送信の設定	4.13
4.4.6	送信遅延の設定	4.13
4.5	RS232C インターフェイスの設定	4.14
4.5.1	動作モード/ハンドシェイクの設定	4.14
4.5.2	波特率の設定	4.15
4.5.3	パリティの設定	4.16
4.5.4	データビットの設定	4.16
4.5.5	ストップビットの設定	4.17
4.5.6	送信遅延の設定	4.17
4.5.7	CTS タイムアウトの設定	4.17
4.6	バーコードリーダーに関する設定	4.18
4.6.1	読み取りモードの設定	4.18
4.6.2	データ照合の設定	4.19
4.6.3	スキャナタイムアウトの設定	4.19
4.6.4	同一バーコード 読取間隔の設定	4.19
4.7	アルファベット大文字/小文字変換の設定	4.20
4.8	コード桁数送信の設定	4.20
4.9	コード ID 送信の設定	4.21
4.10	プリアンプル/ホストアンプルの設定	4.22
4.11	プリフィックス/ホストフィックスの設定	4.23
4.12	読み取りバーコードの設定	4.24
4.12.1	UPC-A の設定	4.24

4.12.2	UPC-E の設定	4.26
4.12.3	JAN/EAN-13 の設定	4.28
4.12.4	JAN/EAN-8 の設定	4.30
4.12.5	コード 39 の設定	4.32
4.12.6	インターリーブド 25 の設定	4.34
4.12.7	インダストリアル 25 の設定	4.36
4.12.8	マトリクス 25 の設定	4.38
4.12.9	コードバ - (NW7) の設定	4.40
4.12.10	コード 128/EAN128 の設定	4.42
4.12.11	コード 93 の設定	4.44
4.12.12	コード 11 の設定	4.46
4.12.13	MSI/Plessey の設定	4.48
4.12.14	UK/Plessey の設定	4.50
4.12.15	IATA の設定	4.52
補足 A	16 進バ - コード 表	A.1
補足 B	キャラクタ表	A.2
補足 C	データ送信フォーマット	A.3
補足 D	RS232C シリアルコマンド	A.4
補足 E	トラブルシューティング	A.5
補足 F	ソフトウェア - コード	A.6
修理依頼書		A.7

1. はじめに

この度は、弊社バーコードリーダーをご購入いただきまして誠にありがとうございます。

この説明書は、本装置の基本的な使用方法について説明しております。ご使用になられる前に必ずお読みください。

1.1 ご使用上の注意

本装置は精密な電子部品で構成されていますので、絶対に分解しないでください。本装置が万一故障した場合は、お買い上げの販売店までご連絡ください。

1.2 梱包内容の確認

本装置の梱包内容は、下記のようになっています。ご確認の上、万一不足、破損品がありましたら、お買い上げの販売店までご連絡ください。

(梱包内容)

- ◆ バーコードリーダー 本体----- 1台¹
- ◆ 簡易説明書----- 1冊

梱包箱は、修理などで製品を返送する場合、輸送時の損傷を避けるために必要となります。大切に保管してください。

¹ 付属のインターフェイスケーブルは、ご購入された型式により異なります。

1.3 ケーブルの取り付けと取り外し

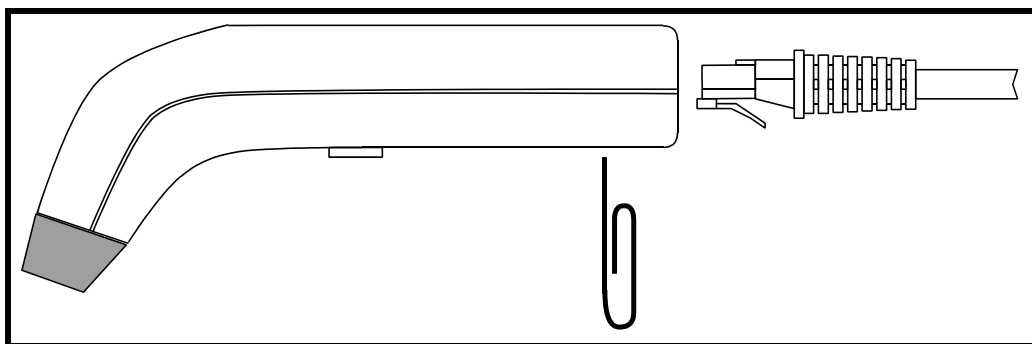
ここでは、バーコードリーダのインターフェイスケーブル取り付け及び取り外し方法を説明します。一部のバーコードリーダは、ケーブル交換できません。本節を読み飛ばしてください。

インターフェイスケーブルの取り外し

バーコードリーダ裏面にあるケーブルロック解除穴（下図参照）にクリップ等の先の細いピンを差し込み、押ししてください。押したままの状態、インターフェイスケーブルを軽く引き抜いてください。強引にケーブルを引っ張らないでください。

インターフェイスケーブルの取り付け

インターフェイスケーブル差し込み口にモジュラコネクタを「カチ」と音がするまで差し込んでください。



1.4 インディケータ

バーコードリーダーは、ホータに動作状態を知らせるためのインディケータとして、ブザー及びLEDを装備しています。

ブザー/LEDの意味については、下記の表を参照下さい。

ブザー音	
ブザー音	意味
ビ° 00° ビ° -	電源投入時、このブザーサウンド音が鳴ります。パラメータ設定により、無効にすることも可能です。
ビ° 0ッ	バーコードラベルの読み取りに成功した時、このブザー音が鳴ります。ブザーの音量・周波数は、パラメータ設定により、変更可能です。
ビ° 000ビ° 000ビ° 000ビ° ッ	パラメータ設定モードに入った時、このブザーサウンド音が鳴ります。
ト000ト000ト000トッ	パラメータ設定モードを終了した時、このブザーサウンド音が鳴ります。
ビ° ッ0ッ	パラメータ設定モードで設定バーコードを読み取った時、このブザー音がなります。数値バーコードラベルの読み取りを必要とするバーコードコマンドをスキャンした時、このブザー音が鳴ります。
ビ° ビ° ッ	パラメータ設定モードで数値バーコードの読み取りを必要とするバーコードコマンドに続いて、正しく数値バーコードをスキャンした時、このブザー音が鳴ります。
ビ° ビ° ビ° ビ° ッ	パラメータ設定モードで間違ったコマンドバーコードを読み取った時、このブザー音が鳴ります。

LED	
LED点灯色	意味
赤色	バーコードを読み取った時、赤色LEDが点灯します。

Blank page

2. PC との接続

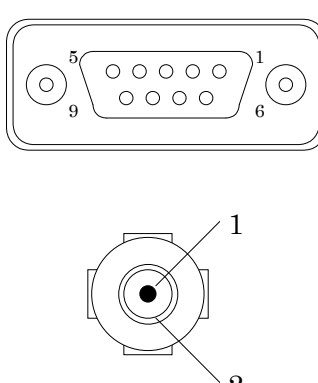
2.1 RS232C インターフェイス

ご購入されたバーコードリーダの型式が下記に当てはまる場合は、RS232C インターフェイスのバーコードリーダです。

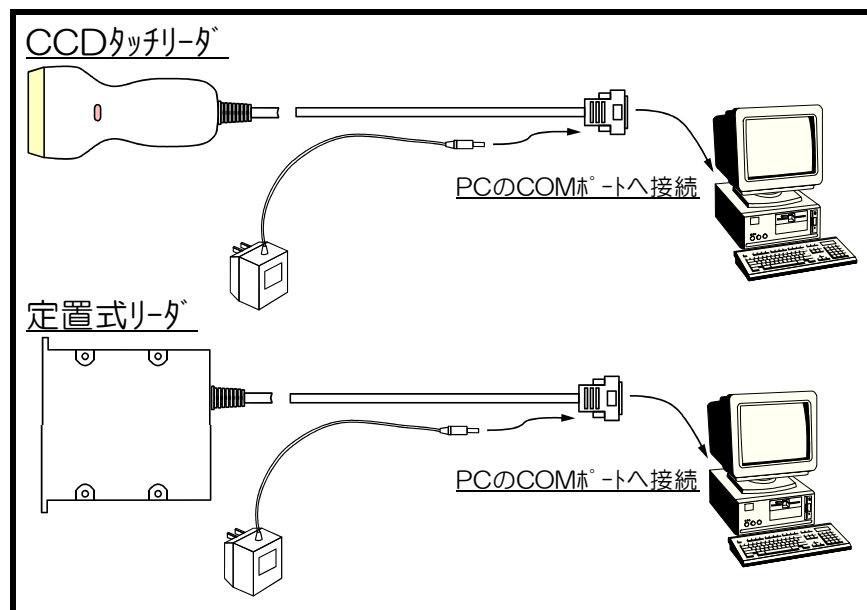
□□□□-RS 例) CM-700-RS など

下記を参照して、バーコードリーダを PC に接続してください。

標準仕様 RS232C インターフェイスケーブルピン配列	
D-Sub9 双コネクタ	
ピン番号	信号名
2	TxD
3	RxD
4	6 番ピンとショート
5	GND
6	4 番ピンとショート
7	CTS
8	RTS
9	VCC (+5V)
電源コネクタ	
ピン番号	信号名
1	VCC (+5V)
2	GND



下記のように PC に接続してください。

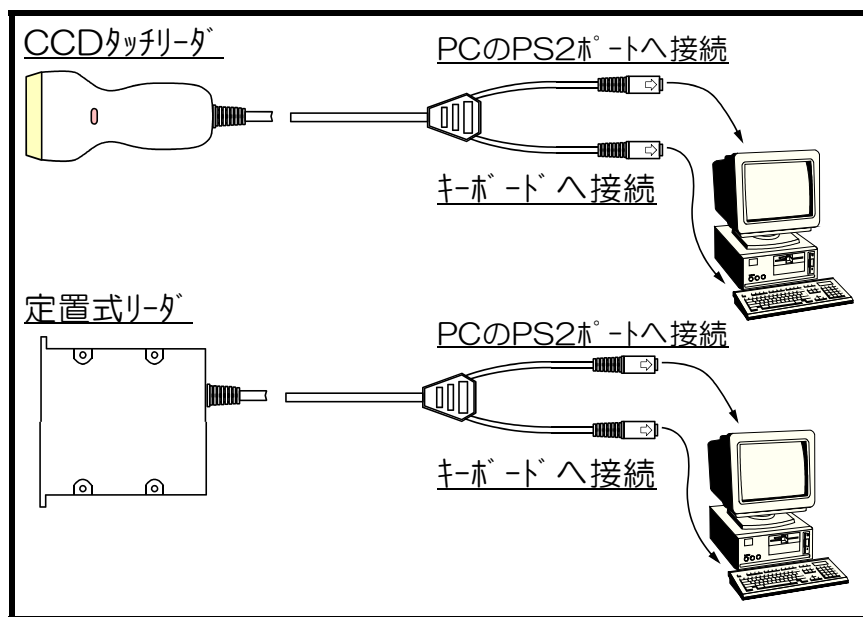


2.2 キーボードインターフェイス

ご購入されたバーコードリーダの型式が下記に当てはまる場合は、DOS/V機対応のキーボードインターフェイスのバーコードリーダです。

□□□□-KBW 例) CM-700-KBW など

下記を参照して、バーコードリーダをPCに接続してください。

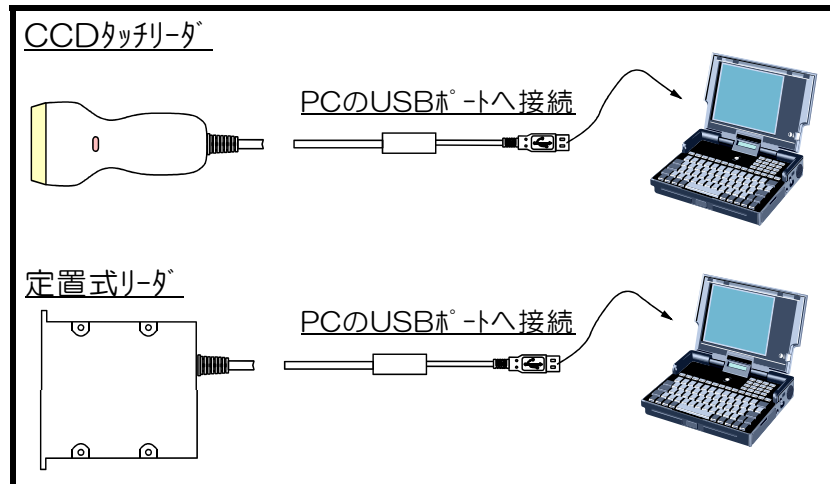


2.3 USB キーボード インターフェイス

ご購入されたバーコードリーダの型式が下記に当てはまる場合は、USB キーボード インターフェイスのバーコードリーダです。

□□□□-USB 例) CM-700-USB など

下記を参照して、バーコードリーダを PC に接続してください。



PCのUSBポートにバーコードリーダを接続すると、Plug & Playにより、自動的にドライバがインストールされます。インストールが完了すれば、帳簿等のアプリケーションを立ち上げ、バーコードデータが正しく入力できるかを確認してください。

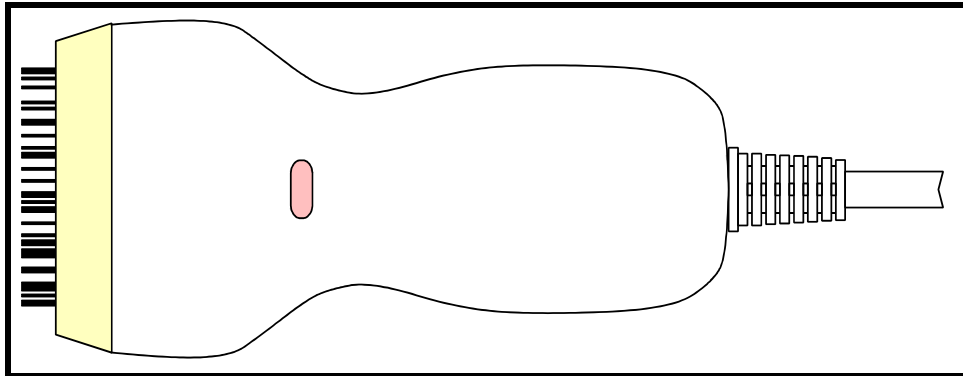
Blank page

3. バーコードの読み取り操作

本章ではバーコードの読み取り操作について説明します。

3.1 バーコードを読み取る

バーコードリーダーでバーコードを読み取る場合は、下図に示す様にバーコードラベルのバーコードに対して、リーダーの読み取り窓ができるだけ垂直になるようにしてください。



ラインゲージ CCD タイプでバーコードを読み取る場合は、下図に示す様に LED ビームがバーコードラベルの端から端まで完全に横切るようにしてください。

良い例



悪い例



Blank page

4. パラメータ設定

バーコードリーダーのパラメータは本章に記載する専用コマンドバーコードを使って設定します。

パラメータ設定を始める前に、PC にバーコードリーダーを正しく接続し、バーコードの読み取りを行える状態にしてください。

コマンドバーコード表の使い方

<p>設定開始コマンドバーコード このバーコードをスキャンすると、パラメータ設定モードに入ります。</p>		<p>設定終了コマンドバーコード このバーコードをスキャンすると、パラメータの変更内容をセーブした後、通常動作に戻ります。</p>									
<p>コマンドバーコード欄 このコマンドバーコードをスキャンすることで、パラメータの変更が行えます。 16進バーコードの読み取りが必要な場合は、「補足 A 16 進バーコード/16進リスト表」を使って、値を入力し、最後に確定バーコードをスキャンします。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>コマンドバーコード</th> <th>説明</th> <th>デフォルト</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">D A A</td> <td>英数字バーコード 英数字バーコードを英数字バーコードからのデータとして送信します。</td> <td style="text-align: center;">■</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">D A B</td> <td>数値バーコード 英数字バーコード(6桁)からのデータとして送信します。</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	コマンドバーコード	説明	デフォルト	D A A	英数字バーコード 英数字バーコードを英数字バーコードからのデータとして送信します。	■	D A B	数値バーコード 英数字バーコード(6桁)からのデータとして送信します。		<p>デフォルト欄 工場出荷時の設定値を意味します。</p>
コマンドバーコード	説明	デフォルト									
D A A	英数字バーコード 英数字バーコードを英数字バーコードからのデータとして送信します。	■									
D A B	数値バーコード 英数字バーコード(6桁)からのデータとして送信します。										

4.1 システムコマンド

コマンドバーコード	説明
設定開始  / \$ % P R G	パラメータ設定モードに入ります。
設定終了  / \$ % E X T	パラメータ変更内容を保存し、パラメータ設定モードを終了します。
キャンセル  / \$ % E S C	パラメータ変更内容を保存せずに、パラメータ設定モードを終了します。
全デフォルト  / \$ % D E F	インターフェイス以外のパラメータ設定内容を工場出荷時のデフォルト値に戻します。
バージョン  / \$ % V E R	バージョン情報を出力します。
設定リスト  / \$ % L S T	設定値リストを出力します。

4.2 バーコードリーダーの簡単セットアップ

本節ではバーコードリーダーを簡単にセットアップできる初期化メニューを掲載します。

設定終了後は、必ず、PC とバーコードリーダーの電源を一旦切にして、電源の再投入を行ってください。

4.2.1 RS232C インターフェイスの初期化

ご購入されたバーコードリーダーの型式が下記に当てはまる場合は、この初期化メニューをご使用ください。

□□□□-RS 例) CM-700-RS など

上から順番に読み取ってください。

	設定開始
	全デフォルト
	設定開始
	RS232C インターフェイス 9600/8/N/1, 無手順

4.2.2 キーボード・USBキーボードインターフェイスの初期化

106/109 日本語キーボード

ご購入されたバーコードリーダーの型式が下記に当てはまり、お使いの PC が日本語キーボードの場合は、この初期化メニューをご使用ください。

- KBW 例) CM-700-KBW など
 □□□□-USB 例) CM-700-USB など

上から順番に読み取ってください。

	設定開始
	全デフォルト
	設定開始
	キーボード / USB キーボード インターフェイス
	設定開始
	106/109 日本語キーボード
	設定終了

101/104 英語キーボード

ご購入されたバーコードリーダーの型式が下記に当てはまり、お使いのPCが英語キーボードの場合は、この初期化メニューをご使用ください。

- KBW 例) CM-700-KBW など
 □□□□-USB 例) CM-700-USB など

上から順番に読み取ってください。

	設定開始
	全デフォルト
	設定開始
	キーボード/USBキーボードインターフェイス 101/104 英語キーボード

4.2.3 プリアンブル/ポストアンブルの初期化

プリアンブルは読み取ったバーコードの前に付加される固定データ、ポストアンブルは読み取ったバーコードの後ろに付加される固定データを意味します。

プリアンブル	バーコードデータ	ポストアンブル
--------	----------	---------

初期状態では、プリアンブル無し・ポストアンブル CR/LF です。変更が必要な場合は、下記から希望する専用メニューバーコードを順番に読み取ってください。

プリアンブル	無し
ポストアンブル	無し

上から順番に読み取ってください。

 / \$ % P R G	設定開始
 I E A	プリアンブル 送信無し
 I F A	ポストアンブル 送信無し
 / \$ % E X T	設定終了

プリアンブル	無し
ポストアンブル	CR(エンター)

上から順番に読み取ってください。

 / \$ % P R G	設定開始
 I E A	プリアンブル 送信無し
 A B B	ポストアンブルキャラクタ 1 設定
 % O O	CR(0DH)
 % O D	
 % O K	確定
 A B C	ポストアンブルキャラクタ 2 設定
 % O O	NUL(00H)
 % O O	
 % O K	確定
 I F B	ポストアンブル 送信有り
 / \$ % E X T	設定終了

プリアンブル	無し
ポストアンブル	TABキー

上から順番に読み取ってください。

 / \$ % P R G	設定開始
 I E A	プリアンブル 送信無し
 A B B	ポストアンブルキャラクタ 1 設定
 % 0 0	TAB(09H)
 % 0 9	
 % 0 K	確定
 A B C	ポストアンブルキャラクタ 2 設定
 % 0 0	NUL(00H)
 % 0 0	
 % 0 K	確定
 I F B	ポストアンブル 送信有り
 / \$ % E X T	設定終了

プリアンブル
ポストアンブル

無し
CR/LF

上から順番に読み取ってください。

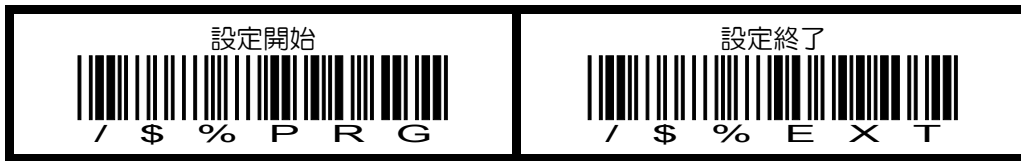
 / \$ % P R G	設定開始
 I E A	プリアンブル 送信無し
 A B B	ポストアンブルキャラクタ 1 設定
 % O O	CR(0DH)
 % O D	
 % O K	確定
 A B C	ポストアンブルキャラクタ 2 設定
 % O O	LF(0AH)
 % O A	
 % O K	確定
 I F B	ポストアンブル 送信有り
 / \$ % E X T	設定終了

プリアンブル	STX
ポストアンブル	ETX

上から順番に読み取ってください。

 / \$ % P R G	設定開始
 A A Z	プリアンブルキャラクタ 1 設定
 % 0 0	STX(02H)
 % 0 2	
 % O K	確定
 A B A	プリアンブルキャラクタ 2 設定
 % 0 0	NUL(00H)
 % 0 0	
 % O K	確定
 I E B	プリアンブル 送信有り
 A B B	ポストアンブルキャラクタ 1 設定
 % 0 0	ETX(03H)
 % 0 3	
 % O K	確定
 A B C	ポストアンブルキャラクタ 2 設定
 % 0 0	NUL(00H)
 % 0 0	
 % O K	確定
 I F B	ポストアンブル 送信有り
 / \$ % E X T	設定終了

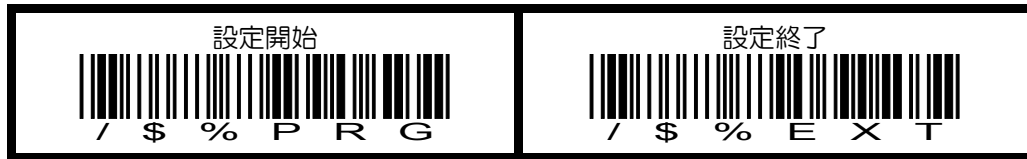
4.3 ブザー音の設定





マツダバ-コード	説明	デフォルト
 C B A	パワーミュージック 無し	
 C B B	パワーミュージック 有り	■
 C E A	読み取り確認ブザー 無し	
 C E B	読み取り確認ブザー 有り	■
 B A C	ブザー音量 左記のマツダバ-コードをスキャンした後、16進バ-コード(本書 補足 A)で2桁の値を入力します。設定範囲は01~10です。	05
 B A D	ブザー周波数 1 左記のマツダバ-コードをスキャンした後、16進バ-コード(本書 補足 A)で2桁の値を入力します。設定範囲は05~50です。(0.1KHz 単位)	24 (2.4KHz)
 B A E	ブザー鳴動時間 1 左記のマツダバ-コードをスキャンした後、16進バ-コード(本書 補足 A)で2桁の値を入力します。設定範囲は01~99です。(10msec 単位)	06 (60msec)
 B D A	ブザー周波数 2 左記のマツダバ-コードをスキャンした後、16進バ-コード(本書 補足 A)で2桁の値を入力します。設定範囲は05~50です。(0.1KHz 単位)	12 (1.2KHz)
 B D B	ブザー鳴動時間 2 左記のマツダバ-コードをスキャンした後、16進バ-コード(本書 補足 A)で2桁の値を入力します。設定範囲は01~99です。(10msec 単位)	06 (60msec)

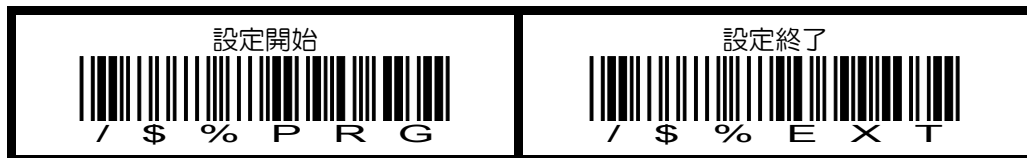
4.4 キーボード / USB キーボード インターフェイスオプションの設定



4.4.1 CAPS ロックの設定



コマンドバースト	説明	デフォルト
 D D A	CAPS ロック キーボードからアルファベットを入力した時、大文字で入力される状態で使用している場合は、左記のコマンドバーストをスキャンします。	■
 D D B	CAPS ロック キーボードからアルファベットを入力した時、小文字で入力される状態で使用している場合は、左記のコマンドバーストをスキャンします。	
 D D C	ALT シグナル キーボードデータを ALT+テンキーで入力します。例えば、A は ALT+65 と入力されます。	





4.4.2 数字データ送信方法の設定



コマンドバースト	説明	デフォルト
 D A A	英数字キー(フルキー) 数字データを英数字キーボード(フルキー)からのデータとして送信します。	■
 D A B	数値キーパッド(テンキー) 数字データを数値キーパッド(テンキー)からのデータとして送信します。	



4.4.3 キーボード送信速度



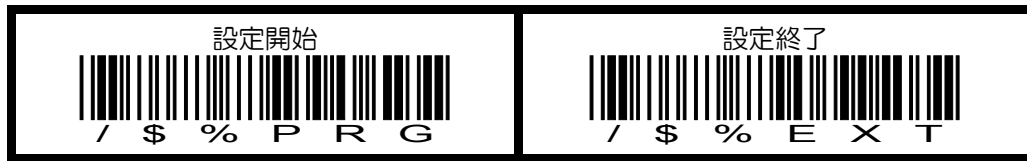
コマンドバーコード	説明	デフォルト
 C Z A	低速	
 C Z B	中速	
 C Z C	高速	■
 C Z D	最速	



4.4.4 DOS/V ノートブックオプションの設定



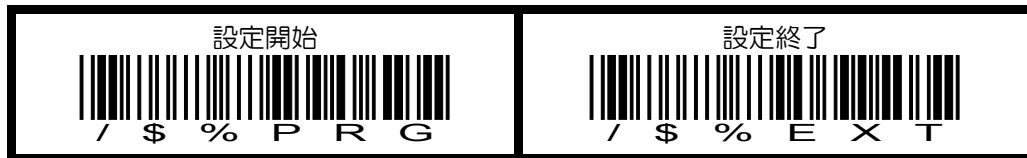
コマンドバーコード	説明	デフォルト
 D C A	外付キーボード有り 外付のキーボード又はテンキーボードを接続して、バーコードリーダーを利用する場合に設定します。	■
 D C B	外付キーボード無し 外付のキーボード又はテンキーボードを接続せずにバーコードリーダーを利用する場合に設定します。	

4.4.5 ファクションキ-送信の設定



コマンドバ-コード	説明	デフォルト
 D B A	ファクションキ-送信 無し (本書 補足 B キャラク表を参照ください)	■
 D B B	ファクションキ-送信 有り (本書 補足 B キャラク表を参照ください)	

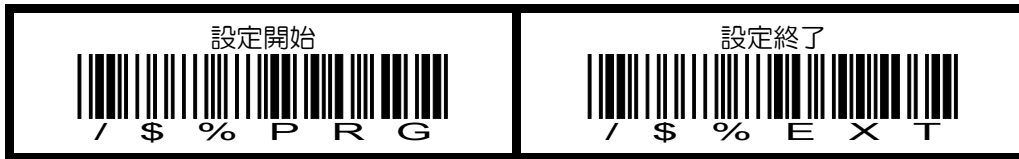
4.4.6 送信デ-ルの設定



コマンドバ-コード	説明	デフォルト
 B A L	<u>キャラクタ間デ-ル設定</u> キャラクタ間デ-ルを設定する場合は、左記のコマンドバ-コードをスキャンした後、16進バ-コード(本書 補足 A)を使って、00~99 の範囲で設定します。(1msec 単位)	01
 B A M	<u>デ-タ間デ-ル設定</u> デ-タ間デ-ルを設定する場合は、左記のコマンドバ-コードをスキャンした後、16進バ-コード(本書 補足 A)を使って、00~99 の範囲で設定します。(10msec 単位)	00

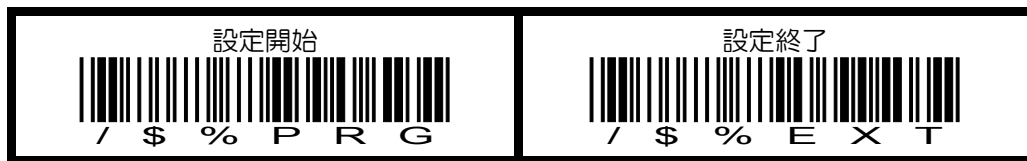
4.5 RS232C インターフェイスの設定

4.5.1 動作モード ハンドシエイクの設定



コマンド バージョ	説明	デフォルト
 D L A	無手順	■
 D L B	RTS/CTS バージョリーダはデータ送信を行う際、自身の RTS 信号を有効にし、CTS タイムアウト(本書 4.5.7 CTS タイムアウト参照)で設定された時間、ホストからの応答(CTS 信号)を待ちます。タイムアウトが発生すると、バージョリーダは、エラービープを 5 回鳴動します。	
 D L D	スケッチ バージョリーダは電源が投入されると、自身の RTS 信号を有効にします。デフォルトは、自身の CTS 信号が有効の場合に送信されます。	
 D L E	データ バージョリーダは電源が投入されると、データ送信を行う際、自身の RTS 信号を有効にし、自身の CTS 信号が有効になると、データを送信されます。	
 D L F	XON/XOFF ホストはデータ受信不可能な場合に、XOFF(11H)をバージョリーダに送信し、受信可能状態に復帰すると、XON(13H)を送信します。	
 D L H	CTS トリガ バージョリーダは自身の CTS 信号が有効になると、バージョリーダ読取動作を開始します。次の読取動作を開始する場合、必ず最小 50msec の間 CTS 信号を有効にする必要があります。	
 D L I	シリアルコマンドトリガ バージョリーダは、DC1(11H)を受信すると、トリガ有効、DC3(13H)を受信すると、トリガ有効にします。	
	トリガ有効 : DC1(11H) トリガ有効 : DC3(13H)	

4.5.2 ポーレートの設定



コマンドバーコード	説明	デフォルト
 D H G	115,200 bps	
 D H H	57,600 bps	
 D H A	38,400bps	
 D H B	19,200bps	
 D H C	9,600bps	■
 D H D	4,800 bps	
 D H E	2,400bps	
 D H F	1,200bps	



4.5.3 パーティの設定



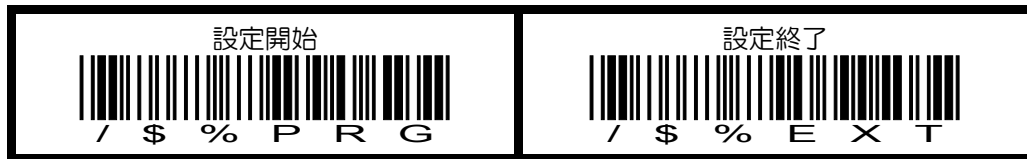
コマンドバーコード	説明	デフォルト
 D K A	無し	■
 D K C	偶数	
 D K D	奇数	
 D K E	スペース	
 D K F	マーク	



4.5.4 データビットの設定



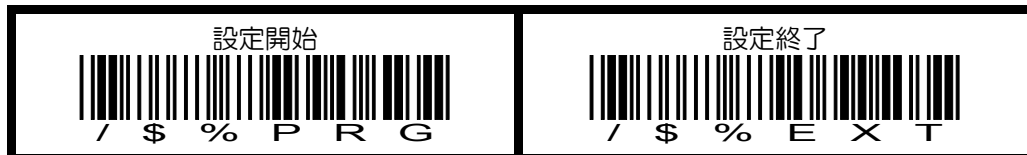
コマンドバーコード	説明	デフォルト
 D J A	7ビット	
 D J B	8ビット	■

4.5.5 ストップビットの設定



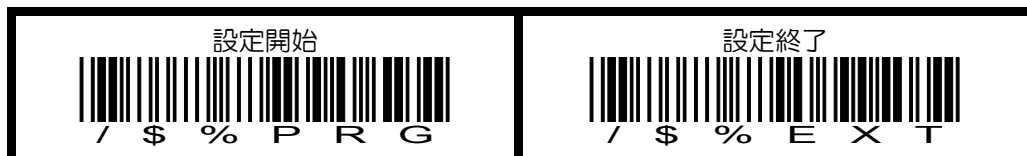
コマンドバ-コード	説明	デフォルト
 D I A	1ビット	■
 D I B	2ビット	


4.5.6 送信デレイの設定



コマンドバ-コード	説明	デフォルト
 B A L	キャラクタ間デレイ設定 キャラクタ間デレイを設定する場合は、左記のコマンドバ-コードをスキャンした後、16進バ-コード(本書 補足 A)を使って、00~99 の範囲で設定します。(1msec 単位)	01
 B A M	データ間デレイ設定 データ間デレイを設定する場合は、左記のコマンドバ-コードをスキャンした後、16進バ-コード(本書 補足 A)を使って、00~99 の範囲で設定します。(10msec 単位)	00

4.5.7 CTS タイムアウトの設定



コマンドバ-コード	説明	デフォルト
 B A N	CTS タイムアウト設定 CTS タイムアウトを設定する場合は、左記のコマンドバ-コードをスキャンした後、16進バ-コード(本書 補足 A)を使って、01~99 の範囲で設定します。(100msec 単位)	30

4.6 バコードリーダーに関する設定

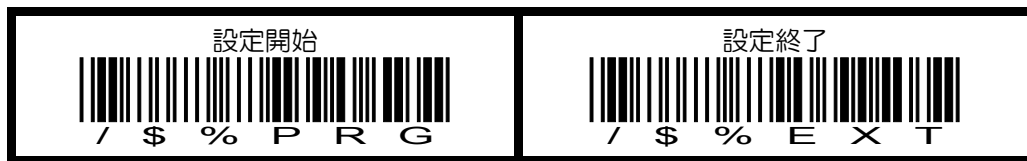
4.6.1 読み取りモードの設定




コマンドバコード	説明	デフォルト
 C A B	オートオフモード トリガボタンを押すと、バコードの読み取りを開始します。バコードの読み取りに成功するか、スキップタイムアウトで設定された時間が経過すると、読み取りを終了します。	
 C A G	コンティニアスモード 常にバコード読み取り状態となります。	<input type="checkbox"/> ¹
 C A E	オートパワーオンモード トリガボタンを押すと、バコードの読み取りを開始します。バコードの読み取りに成功すると、スキップタイムアウトを再カウントし、読み取りを続けます。スキップタイムアウトで設定された時間が経過すると、読み取りを終了します。	<input checked="" type="checkbox"/>
 C A D	オルナートモード トリガボタンを一度押すと、バコードの読み取り状態となり、再度トリガボタンを押すと、読み取りを終了します。	
 C A C	メモリアルモード トリガボタンを押している間、バコードの読み取りを行い、トリガボタンを離すと、読み取りを終了します。	
 C A F	フラッシュモード 常にバコード読み取り状態となりますが、スキップタイムアウトで設定された時間バコードを読み取らなければ、消費電流を抑えるため、読取LEDをフラッシュさせます。	
 C A A	テストモード 常に読み取り状態となり、同一バコードも連続して読み取ることが出来ます。読み取りテストを行う場合に使用します。	

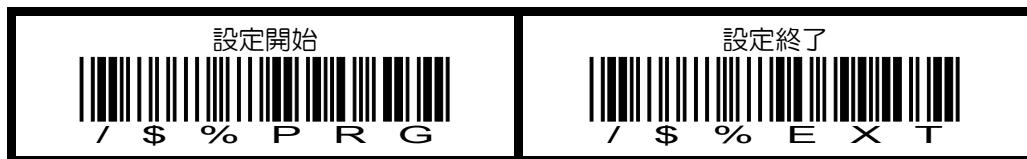
¹ 定置式バコードスキャナ 1020M/1050/1050NC/1050M のデフォルト値です。定置式バコードスキャナでトリガ入力が必要とする読み取りモードを設定した場合、バコードスキャナモジュール基板上のIC初回からハードウェアトリガを入力するか、又は RS232C インターフェイス経由でシリアルコマンドを発行する必要がありますので、ご注意ください。


4.6.2 データ照合の設定



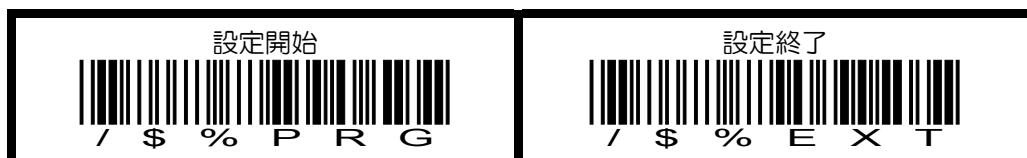
コマンドバ-コード	説明	デフォルト
 C S A	<u>データ照合無し</u> データ照合を行いません。	■
 C S B	<u>データ照合有り</u>	
 B A J	<u>データ照合回数設定</u> データ照合回数を設定する場合は、左記のコマンドバ-コードをスキャンした後、16進バ-コード(本書 補足 A)を使って、01~99 の範囲で設定します。	01


4.6.3 スキャンタイムアウトの設定



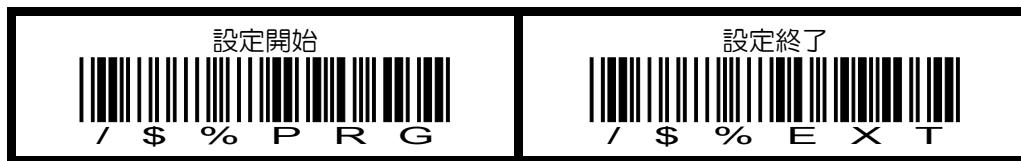
コマンドバ-コード	説明	デフォルト
 B A F	<u>スキャンタイムアウト</u> スキャンタイムアウトを設定する場合は、左記のコマンドバ-コードをスキャンした後、16進バ-コード(本書 補足 A)を使って、01~99 の範囲で設定します。(1sec 単位)	10

4.6.4 同一バ-コード 読取間隔の設定



コマンドバ-コード	説明	デフォルト
 B A I	<u>同一バ-コード 読取間隔設定</u> 同一バ-コード 読取間隔を設定する場合は、左記のコマンドバ-コードをスキャンした後、16進バ-コード(本書 補足 A) を使って、01~99 の範囲で設定します。(10msec 単位)	50



4.7 アルファベット大文字/小文字変換の設定



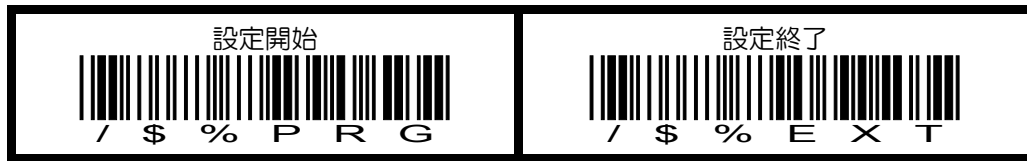
コマンドバーコード	説明	デフォルト
 C T A	<u>変換無し</u> アルファベット大文字/小文字変換を行いません。 例) 読取データ WelCom Design 送信データ WelCom Design	■
 C T C	<u>大文字へ変換</u> アルファベットを大文字へ変換します。 例) 読取データ WelCom Design 送信データ WELCOM DESIGN	
 C T D	<u>小文字へ変換</u> アルファベットを小文字へ変換します。 例) 読取データ WelCom Design 送信データ welcom design	

4.8 コード桁数送信の設定



コマンドバーコード	説明	デフォルト
 I K A	<u>コード桁数送信無し</u> コード桁数を送信しません。	■
 I K B	<u>コード桁数送信有り</u> コード桁数を送信します。	

4.9 コード ID 送信の設定



コマンドバーコード	説明	デフォルト
 I B A	コード ID 送信無し コード ID キャラクタを送信しません。	■
 I B B	コード ID 送信有り コード ID キャラクタを送信します。	
 I C A	コード ID 送信位置：バーコードデータの前 コード ID キャラクタをバーコードデータの前に付加して送信します。	■
 I C B	コード ID 送信位置：バーコードデータの後 コード ID キャラクタをバーコードデータの後に付加して送信します。	

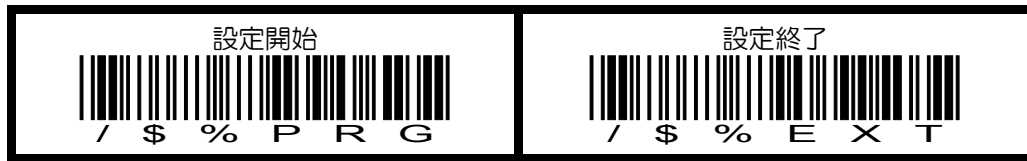
バーコードタイプ	コード ID キャラクタ	バーコードタイプ	コード ID キャラクタ
UPC-A	A	コードバー-(NW7)	N
UPC-E	E	コード 128	K
JAN/EAN-13	F	コード 93	L
JAN/EAN-8	FF	コード 11	O
コード 39	M	MSI/Plessey	P
インターリーブド 25	I	UK/Plessey	R
インダストリアル 25	H	IATA	Q
マトリクス 25	G		

4.10 プリアンブル・ポストアンブルの設定



コマンドバ-コード	説明	デフォルト
 I E A	<u>プリアンブル送信無し</u> プリアンブルを送信しません。	■
 I E B	<u>プリアンブル送信有り</u> プリアンブルを送信します。	
 A A Z	<u>プリアンブルキャラクタ 1</u> プリアンブルキャラクタ 1 を設定する場合は、左記のコマンドバ-コード をスキャンした後、16 進バ-コード (本書 補足 A) を使って、キャラクタを設定します。例えば、@(40H)を設定する場合は、4→0→確定とスキャンします。	
 A B A	<u>プリアンブルキャラクタ 2</u> プリアンブルキャラクタ 2 を設定する場合は、左記のコマンドバ-コード をスキャンした後、16 進バ-コード (本書 補足 A) を使って、キャラクタを設定します。例えば、@(40H)を設定する場合は、4→0→確定とスキャンします。	
 I F A	<u>ポストアンブル送信無し</u> ポストアンブルを送信しません。	
 I F B	<u>ポストアンブル送信有り</u> ポストアンブルを送信します。	■
 A B B	<u>ポストアンブルキャラクタ 1</u> ポストアンブルキャラクタ 1 を設定する場合は、左記のコマンドバ-コード をスキャンした後、16 進バ-コード (本書 補足 A) を使って、キャラクタを設定します。例えば、@(40H)を設定する場合は、4→0→確定とスキャンします。	0D(CR)
 A B C	<u>ポストアンブルキャラクタ 2</u> ポストアンブルキャラクタ 2 を設定する場合は、左記のコマンドバ-コード をスキャンした後、16 進バ-コード (本書 補足 A) を使って、キャラクタを設定します。例えば、@(40H)を設定する場合は、4→0→確定とスキャンします。	0A(LF)

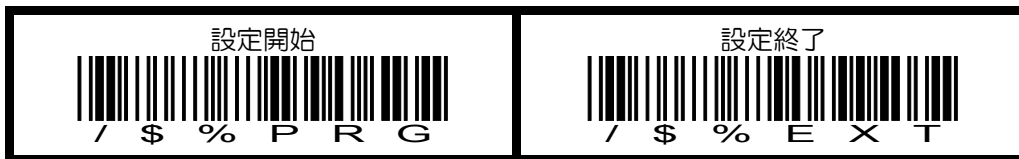
4.11 プリフィックス/ポストフィックスの設定



コマンドバーコード	説明	デフォルト
 I G A	<u>プリフィックス送信無し</u> プリフィックスを送信しません。	■
 I G B	<u>プリフィックス送信有り</u> プリフィックスを送信します。	
 I M A	<u>プリフィックスクリア</u> プリフィックスデータをクリアします。	
 A B F	<u>プリフィックスデータ</u> プリフィックスデータを設定する場合は、左記のコマンドバーコードをスキャンした後、16進バーコード(本書 補足 A)を使って、10文字迄の文字列を設定します。例えば、@(40H)+(2BH)を設定する場合は、4→0→2→B→確定とスキャンします。	00
 I H A	<u>ポストフィックス送信無し</u> ポストフィックスを送信しません。	■
 I H B	<u>ポストフィックス送信有り</u> ポストフィックスを送信します。	
 I N A	<u>ポストフィックスクリア</u> ポストフィックスデータをクリアします。	
 A B G	<u>ポストフィックスデータ</u> ポストフィックスデータを設定する場合は、左記のコマンドバーコードをスキャンした後、16進バーコード(本書 補足 A)を使って、10文字迄の文字列を設定します。例えば、@(40H)+(2BH)を設定する場合は、4→0→2→B→確定とスキャンします。	00

4.12 読み取りバーコードの設定

4.12.1 UPC-A の設定



コマンドバーコード	説明	デフォルト
 D V A	読み取り無し	
 D V B	読み取り有り	■
 D W A	アドカ 2/5 読み取り無し	■
 D W B	アドカ 2 読み取り有り	
 D W C	アドカ 5 読み取り有り	
 D W D	アドカ 2/5 読み取り有り	
 D X A	アドカコード 読み取り待ち無し	■
 D X B	アドカコード 読み取り待ち有り	
 B A K	アドカコード 読み取り待ちタイマ-設定(共通) アドカコード 読み取り待ちタイマ-を設定する場合は、左記のコマンドバーコードをスキャンした後、16 進バーコード (本書 補足 A) を使って、01~99 の範囲で設定します。(10msec 単位)	50
 E A A	チェックイット送信無し	
 E A B	チェックイット送信有り	■

	先頭0削除無し	■
	先頭0削除有り 例) 読取コード 00054321 送信コード 54321	
	先頭削除桁数設定 先頭削除桁数を設定する場合は、左記のマツトバーコードをスキャンした後、16進バーコード(本書 補足 A) を使って、先頭から削除したい桁数を 00~15 の範囲で設定します。先頭削除桁数を 03 に設定した場合、00054321 というデータは、54321 として送信されます。	00
	後方削除桁数設定 後方削除桁数を設定する場合は、左記のマツトバーコードをスキャンした後、16進バーコード(本書 補足 A) を使って、後方から削除したい桁数を 00~15 の範囲で設定します。後方削除桁数を 03 に設定した場合、00054321 というデータは、00054 として送信されます。	00
	ユーザーコード ID キャラクタ設定 ユーザーコード ID キャラクタを設定する場合は、左記のマツトバーコードをスキャンした後、16進バーコード(本書 補足 A) を使って、任意のキャラクタを設定します。@(40H)を設定したい場合、4→0→確定とスキャンします。	

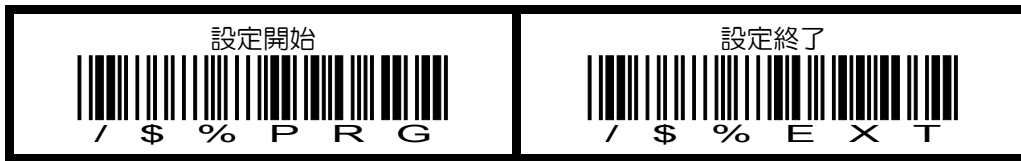
4.12.2 UPC-E の設定



コマンドバーコード	説明	デフォルト
 E C A	読み取り無し	
 E C B	読み取り有り	■
 E D A	アドカ 2/5 読み取り無し	■
 E D B	アドカ 2 読み取り有り	
 E D C	アドカ 5 読み取り有り	
 E D D	アドカ 2/5 読み取り有り	
 E E A	アドカコード 読み取り待ち無し	■
 E E B	アドカコード 読み取り待ち有り	
 B A K	アドカコード 読み取り待ちタイマ-設定(共通) アドカコード 読み取り待ちタイマ-を設定する場合は、左記のコマンドバーコードをスキャンした後、16 進バーコード (本書 補足 A) を使って、01~99 の範囲で設定します。(10msec 単位)	50
 E I A	チェックビット送信無し	
 E I B	チェックビット送信有り	■

 E F A	EAN13 変換無し	■
 E F B	EAN13 変換有り	
 E H A	先頭ゼロ削除無し	■
 E H B	先頭ゼロ削除有り 例) 読取コード 00054321 送信コード 54321	
 B A Q	先頭削除桁数設定 先頭削除桁数を設定する場合は、左記のマトリックスコードをスキャンした後、16進コード(本書 補足 A) を使って、先頭から削除したい桁数を 00~15 の範囲で設定します。先頭削除桁数を 03 に設定した場合、00054321 というデータは、54321 として送信されます。	00
 B A R	後方削除桁数設定 後方削除桁数を設定する場合は、左記のマトリックスコードをスキャンした後、16進コード(本書 補足 A) を使って、後方から削除したい桁数を 00~15 の範囲で設定します。後方削除桁数を 03 に設定した場合、00054321 というデータは、00054 として送信されます。	00
 A A B	ユーザーコード ID キャラクタ 1 設定 ユーザーコード ID キャラクタ 1 を設定する場合は、左記のマトリックスコードをスキャンした後、16進コード(本書 補足 A) を使って、任意のキャラクタを設定します。@(40H)を設定したい場合、4→0→確定とスキャンします。	
 A A C	ユーザーコード ID キャラクタ 2 設定 ユーザーコード ID キャラクタ 2 を設定する場合は、左記のマトリックスコードをスキャンした後、16進コード(本書 補足 A) を使って、任意のキャラクタを設定します。@(40H)を設定したい場合、4→0→確定とスキャンします。	

4.12.3 JAN/EAN-13 の設定



コマンドバーコード	説明	デフォルト
 E K A	読み取り無し	
 E K B	読み取り有り	■
 E L A	アドカ2/5 読み取り無し	■
 E L B	アドカ2 読み取り有り	
 E L C	アドカ5 読み取り有り	
 E L D	アドカ2/5 読み取り有り	
 E M A	アドカコード 読み取り待ち無し	■
 E M B	アドカコード 読み取り待ち有り	
 B A K	アドカコード 読み取り待ちタイマー設定(共通) アドカコード 読み取り待ちタイマーを設定する場合は、左記のコマンドバーコードをスキャンした後、16進バーコード(本書 補足 A) を使って、01~99の範囲で設定します。(10msec 単位)	50
 E Q A	チェックビット送信無し	
 E Q B	チェックビット送信有り	■

 E N A	ISBN(978)/ISSN(977)変換無し	■
 E N B	ISBN(978)/ISSN(977)変換有り	
 E P A	先頭ゼロ削除無し	■
 E P B	<u>先頭ゼロ削除有り</u> 例) 読取コード 00054321 送信コード 54321	
 B A S	<u>先頭削除桁数設定</u> 先頭削除桁数を設定する場合は、左記のマウントバーコードをスキャンした後、16進バーコード(本書 補足 A) を使って、先頭から削除したい桁数を 00~15 の範囲で設定します。先頭削除桁数を 03 に設定した場合、00054321 というデータは、54321 として送信されます。	00
 B A T	<u>後方削除桁数設定</u> 後方削除桁数を設定する場合は、左記のマウントバーコードをスキャンした後、16進バーコード(本書 補足 A) を使って、後方から削除したい桁数を 00~15 の範囲で設定します。後方削除桁数を 03 に設定した場合、00054321 というデータは、00054 として送信されます。	00
 A A D	<u>ユーザーコード ID キャラク設定</u> ユーザーコード ID キャラクを設定する場合は、左記のマウントバーコードをスキャンした後、16進バーコード(本書 補足 A) を使って、任意のキャラクタを設定します。@(40H)を設定したい場合、4→0→確定とスキャンします。	

4.12.4 JAN/EAN-8 の設定



コマンドバーコード	説明	デフォルト
 E S A	読み取り無し	
 E S B	読み取り有り	■
 E T A	アドカ 2/5 読み取り無し	■
 E T B	アドカ 2 読み取り有り	
 E T C	アドカ 5 読み取り有り	
 E T D	アドカ 2/5 読み取り有り	
 E U A	アドカコード 読み取り待ち無し	■
 E U B	アドカコード 読み取り待ち有り	
 B A K	アドカコード 読み取り待ちタイマ-設定(共通) アドカコード 読み取り待ちタイマ-を設定する場合は、左記のコマンドバーコードをスキャンした後、16 進バーコード (本書 補足 A) を使って、01~99 の範囲で設定します。(10msec 単位)	50
 E Y A	チェックビット送信無し	
 E Y B	チェックビット送信有り	■

 E V A	EAN13 変換無し	■
 E V B	EAN13 変換有り	
 E X A	先頭ゼロ削除無し	■
 E X B	先頭ゼロ削除有り 例) 読取コード 00054321 送信コード 54321	
 B A U	先頭削除桁数設定 先頭削除桁数を設定する場合は、左記のマトリックスコードをスキャンした後、16進コード(本書 補足 A) を使って、先頭から削除したい桁数を 00~15 の範囲で設定します。先頭削除桁数を 03 に設定した場合、00054321 というデータは、54321 として送信されます。	00
 B A V	後方削除桁数設定 後方削除桁数を設定する場合は、左記のマトリックスコードをスキャンした後、16進コード(本書 補足 A) を使って、後方から削除したい桁数を 00~15 の範囲で設定します。後方削除桁数を 03 に設定した場合、00054321 というデータは、00054 として送信されます。	00
 A A E	ユーザーコード ID キャラクタ 1 設定 ユーザーコード ID キャラクタ 1 を設定する場合は、左記のマトリックスコードをスキャンした後、16進コード(本書 補足 A) を使って、任意のキャラクタを設定します。@(40H)を設定したい場合、4→0→確定とスキャンします。	
 A A F	ユーザーコード ID キャラクタ 2 設定 ユーザーコード ID キャラクタ 2 を設定する場合は、左記のマトリックスコードをスキャンした後、16進コード(本書 補足 A) を使って、任意のキャラクタを設定します。@(40H)を設定したい場合、4→0→確定とスキャンします。	

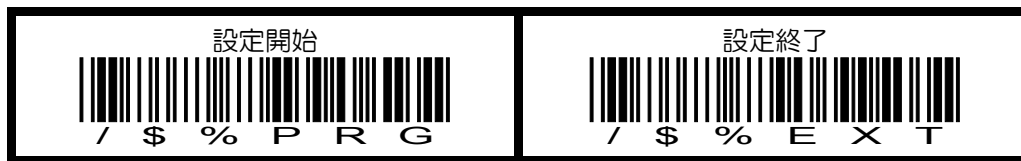
4.12.5 コード 39 の設定



コマンドバーコード	説明	デフォルト
 F A A	読み取り無し	
 F A B	読み取り有り	■
 F B A	フルアスキー読み取り無し	■
 F B B	フルアスキー読み取り有り	
 F F A	スタート/ストップ キャラクタ(*)送信無し	■
 F F B	スタート/ストップ キャラクタ(*)送信有り	
 F G A	チェックイット無し	■
 F G B	チェックイット有り	
 F H A	チェックイット送信無し	
 F H B	チェックイット送信有り	■

	<p>先頭削除桁数設定 先頭削除桁数を設定する場合は、左記のマトリックスバーコードをスキャンした後、16進バーコード(本書 補足 A) を使って、先頭から削除したい桁数を 00~15 の範囲で設定します。先頭削除桁数を 03 に設定した場合、00054321 というデータは、54321 として送信されます。</p>	00
	<p>後方削除桁数設定 後方削除桁数を設定する場合は、左記のマトリックスバーコードをスキャンした後、16進バーコード(本書 補足 A) を使って、後方から削除したい桁数を 00~15 の範囲で設定します。後方削除桁数を 03 に設定した場合、00054321 というデータは、00054 として送信されます。</p>	00
	<p>最小読み取り桁数設定 最小読み取り桁数を設定する場合は、左記のマトリックスバーコードをスキャンした後、16進バーコード(本書 補足 A) を使って、01~56 の範囲で設定します。但し、1088 シリーズは、23 桁以上のバーコード読み取りには対応していません。</p>	00
	<p>最大読み取り桁数設定 最大読み取り桁数を設定する場合は、左記のマトリックスバーコードをスキャンした後、16進バーコード(本書 補足 A) を使って、01~56 の範囲で設定します。但し、1088 シリーズは、23 桁以上のバーコード読み取りには対応していません。</p>	00
	<p>ユーザコード ID キャラクタ設定 ユーザコード ID キャラクタを設定する場合は、左記のマトリックスバーコードをスキャンした後、16進バーコード(本書 補足 A) を使って、任意のキャラクタを設定します。@(40H)を設定したい場合、4→0→確定とスキャンします。</p>	

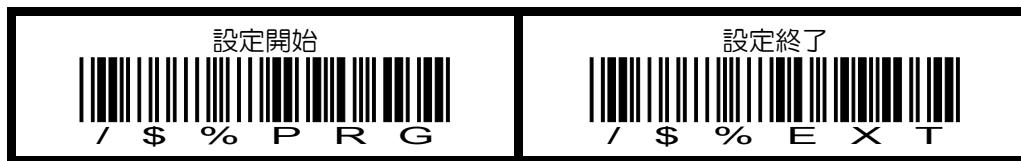
4.12.6 インターリード 25 の設定



コマンドバ-コード	説明	デフォルト
 F K A	読み取り無し	■
 F K B	読み取り有り	
 F N A	チェックバ-ット無し	■
 F N B	チェックバ-ット有り	
 F O A	チェックバ-ット送信無し	■
 F O B	チェックバ-ット送信有り	
 B B C	先頭削除桁数設定 先頭削除桁数を設定する場合は、左記のコマンドバ-コードをスキャンした後、16進バ-コード(本書 補足 A) を使って、先頭から削除したい桁数を 00~15 の範囲で設定します。先頭削除桁数を 03 に設定した場合、00054321 というデータ列は、54321 として送信されます。	00
 B B D	後方削除桁数設定 後方削除桁数を設定する場合は、左記のコマンドバ-コードをスキャンした後、16進バ-コード(本書 補足 A) を使って、後方から削除したい桁数を 00~15 の範囲で設定します。後方削除桁数を 03 に設定した場合、00054321 というデータ列は、00054 として送信されます。	00

	<p>最小読み取り桁数設定 最小読み取り桁数を設定する場合は、左記のマトリックスコードをスキャンした後、16進マトリックスコード(本書 補足 A) を使って、01~56 の範囲で設定します。但し、1088 シリーズは、23桁以上のマトリックスコード読み取りには対応していません。</p>	06
	<p>最大読み取り桁数設定 最大読み取り桁数を設定する場合は、左記のマトリックスコードをスキャンした後、16進マトリックスコード(本書 補足 A) を使って、01~56 の範囲で設定します。但し、1088 シリーズは、23桁以上のマトリックスコード読み取りには対応していません。</p>	00
	<p>マトリックスコード ID キャラクタ設定 マトリックスコード ID キャラクタを設定する場合は、左記のマトリックスコードをスキャンした後、16進マトリックスコード(本書 補足 A) を使って、任意のキャラクタを設定します。@(40H)を設定したい場合、4→0→確定とスキャンします。</p>	

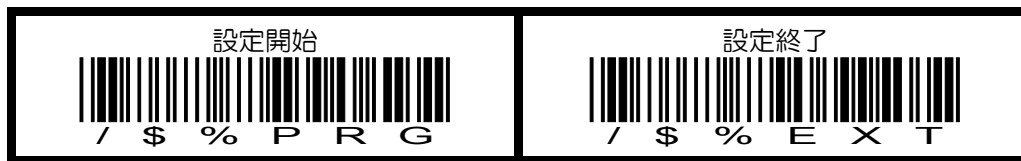
4.12.7 インダストリアル 25 の設定



コマンドバ-コード	説明	デフォルト
 F Q A	読み取り無し	■
 F Q B	読み取り有り	
 F S A	チェックイット無し	■
 F S B	チェックイット有り	
 F T A	チェックイット送信無し	■
 F T B	チェックイット送信有り	
 B B G	先頭削除桁数設定 先頭削除桁数を設定する場合は、左記のコマンドバ-コードをスキャンした後、16進バ-コード(本書 補足 A) を使って、先頭から削除したい桁数を 00~15 の範囲で設定します。先頭削除桁数を 03 に設定した場合、00054321 というデータ列は、54321 として送信されます。	00
 B B H	後方削除桁数設定 後方削除桁数を設定する場合は、左記のコマンドバ-コードをスキャンした後、16進バ-コード(本書 補足 A) を使って、後方から削除したい桁数を 00~15 の範囲で設定します。後方削除桁数を 03 に設定した場合、00054321 というデータ列は、00054 として送信されます。	00

	<p>最小読み取り桁数設定 最小読み取り桁数を設定する場合は、左記のマトリックスバーコードをスキャンした後、16進バーコード(本書 補足 A) を使って、01~56 の範囲で設定します。但し、1088 シリーズは、23桁以上のバーコード読み取りには対応していません。</p>	04
	<p>最大読み取り桁数設定 最大読み取り桁数を設定する場合は、左記のマトリックスバーコードをスキャンした後、16進バーコード(本書 補足 A) を使って、01~56 の範囲で設定します。但し、1088 シリーズは、23桁以上のバーコード読み取りには対応していません。</p>	00
	<p>ユーザーコード ID キャラクタ設定 ユーザーコード ID キャラクタを設定する場合は、左記のマトリックスバーコードをスキャンした後、16進バーコード(本書 補足 A) を使って、任意のキャラクタを設定します。@(40H)を設定したい場合、4→0→確定とスキャンします。</p>	

4.12.8 マトリクス 25 の設定















マトリクスコード	説明	デフォルト
 F V A	読み取り無し	■
 F V B	読み取り有り	
 F X A	チェックビット無し	■
 F X B	チェックビット有り	
 F Y A	チェックビット送信無し	■
 F Y B	チェックビット送信有り	
 B B K	先頭削除桁数設定 先頭削除桁数を設定する場合は、左記のマトリクスコードをスキャンした後、16進コード(本書 補足 A) を使って、先頭から削除したい桁数を 00~15 の範囲で設定します。先頭削除桁数を 03 に設定した場合、00054321 というデータ列は、54321 として送信されます。	00
 B B L	後方削除桁数設定 後方削除桁数を設定する場合は、左記のマトリクスコードをスキャンした後、16進コード(本書 補足 A) を使って、後方から削除したい桁数を 00~15 の範囲で設定します。後方削除桁数を 03 に設定した場合、00054321 というデータ列は、00054 として送信されます。	00

	<p>最小読み取り桁数設定 最小読み取り桁数を設定する場合は、左記のマトリックスバーコードをスキャンした後、16進バーコード(本書 補足 A) を使って、01~56 の範囲で設定します。但し、1088 シリーズは、23桁以上のバーコード読み取りには対応していません。</p>	04
	<p>最大読み取り桁数設定 最大読み取り桁数を設定する場合は、左記のマトリックスバーコードをスキャンした後、16進バーコード(本書 補足 A) を使って、01~56 の範囲で設定します。但し、1088 シリーズは、23桁以上のバーコード読み取りには対応していません。</p>	00
	<p>ユーザーコード ID キャラクタ設定 ユーザーコード ID キャラクタを設定する場合は、左記のマトリックスバーコードをスキャンした後、16進バーコード(本書 補足 A) を使って、任意のキャラクタを設定します。@(40H)を設定したい場合、4→0→確定とスキャンします。</p>	

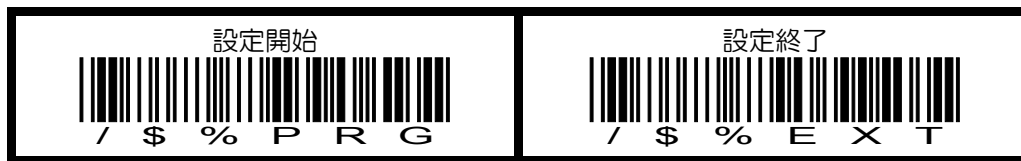
4.12.9 コーダバ-(NW7)の設定



コマンドバーコード	説明	デフォルト
 G F A	読み取り無し	
 G F B	読み取り有り	■
 G G A	スタート/ストップ キャラクタ ABCD/ABCD	■
 G G B	スタート/ストップ キャラクタ abcd/abcd	
 G G C	スタート/ストップ キャラクタ ABCD/TN*E	
 G G D	スタート/ストップ キャラクタ abcd/tn*e	
 G I A	スタート/ストップ キャラクタ送信無し	■
 G I B	スタート/ストップ キャラクタ送信有り	
 G J A	チェック イット(モジュラス 16)無し	■
 G J B	チェック イット(モジュラス 16)有り	
 G K A	チェック イット送信無し	■
 G K B	チェック イット送信有り	

	<p>先頭削除桁数設定 先頭削除桁数を設定する場合は、左記のマトリックスバーコードをスキャンした後、16進バーコード(本書 補足 A) を使って、先頭から削除したい桁数を 00~15 の範囲で設定します。先頭削除桁数を 03 に設定した場合、00054321 というデータは、54321 として送信されます。</p>	00
	<p>後方削除桁数設定 後方削除桁数を設定する場合は、左記のマトリックスバーコードをスキャンした後、16進バーコード(本書 補足 A) を使って、後方から削除したい桁数を 00~15 の範囲で設定します。後方削除桁数を 03 に設定した場合、00054321 というデータは、00054 として送信されます。</p>	00
	<p>最小読み取り桁数設定 最小読み取り桁数を設定する場合は、左記のマトリックスバーコードをスキャンした後、16進バーコード(本書 補足 A) を使って、01~56 の範囲で設定します。但し、1088 シリーズは、23 桁以上のバーコード読み取りには対応していません。</p>	04
	<p>最大読み取り桁数設定 最大読み取り桁数を設定する場合は、左記のマトリックスバーコードをスキャンした後、16進バーコード(本書 補足 A) を使って、01~56 の範囲で設定します。但し、1088 シリーズは、23 桁以上のバーコード読み取りには対応していません。</p>	00
	<p>ユーザーコード ID キャラクタ設定 ユーザーコード ID キャラクタを設定する場合は、左記のマトリックスバーコードをスキャンした後、16進バーコード(本書 補足 A) を使って、任意のキャラクタを設定します。@(40H)を設定したい場合、4→0→確定とスキャンします。</p>	

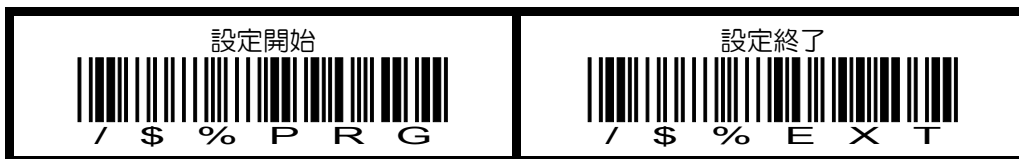
4.12.10 コード 128/EAN128 の設定



コードバ-コード	説明	デフォルト
 G M A	読み取り無し	
 G M B	読み取り有り	■
 G N A	コード 128 標準フォーマット	■
 G N B	UCC/EAN-128 フォーマット	
 G O A	連結ファンクション無し	■
 G O B	連結ファンクション有り	
 G Q A	チェックイット(モジュール 103)無し	
 G Q B	チェックイット(モジュール 103)有り	■
 G R A	チェックイット送信無し	■
 G R B	チェックイット送信有り	
 A B K	GS置換キャラクタ設定(UCC/EAN128) GS(FNC1)キャラクタを任意のキャラクタに置換したい場合は、左記のコードバ-コードをスキャンした後、16進バ-コード(本書 補足 A)を使って、任意のキャラクタを設定します。@(40H)を設定したい場合、4→0→確定とスキャンします。	

	<p>先頭削除桁数設定 先頭削除桁数を設定する場合は、左記のマトリックスバーコードをスキャンした後、16進バーコード(本書 補足 A) を使って、先頭から削除したい桁数を 00~15 の範囲で設定します。先頭削除桁数を 03 に設定した場合、00054321 というデータは、54321 として送信されます。</p>	00
	<p>後方削除桁数設定 後方削除桁数を設定する場合は、左記のマトリックスバーコードをスキャンした後、16進バーコード(本書 補足 A) を使って、後方から削除したい桁数を 00~15 の範囲で設定します。後方削除桁数を 03 に設定した場合、00054321 というデータは、00054 として送信されます。</p>	00
	<p>最小読み取り桁数設定 最小読み取り桁数を設定する場合は、左記のマトリックスバーコードをスキャンした後、16進バーコード(本書 補足 A) を使って、01~56 の範囲で設定します。但し、1088 シリーズは、23 桁以上のバーコード読み取りには対応していません。</p>	00
	<p>最大読み取り桁数設定 最大読み取り桁数を設定する場合は、左記のマトリックスバーコードをスキャンした後、16進バーコード(本書 補足 A) を使って、01~56 の範囲で設定します。但し、1088 シリーズは、23 桁以上のバーコード読み取りには対応していません。</p>	00
	<p>ユーザーコード ID キャラクタ設定(コード 128) ユーザーコード ID キャラクタを設定する場合は、左記のマトリックスバーコードをスキャンした後、16進バーコード(本書 補足 A) を使って、任意のキャラクタを設定します。@(40H)を設定したい場合、4→0→確定とスキャンします。</p>	
	<p>ユーザーコード ID キャラクタ設定(UCC/EAN128) ユーザーコード ID キャラクタを設定する場合は、左記のマトリックスバーコードをスキャンした後、16進バーコード(本書 補足 A) を使って、任意のキャラクタを設定します。@(40H)を設定したい場合、4→0→確定とスキャンします。</p>	

4.12.11 コード 93 の設定



コマンドバーコード	説明	デフォルト
 G T A	読み取り無し	■
 G T B	読み取り有り	
 G V A	連結ファンクション無し	■
 G V B	連結ファンクション有り	
 G W A	チェックビット(モジュラス47)無し	
 G W C	チェックビット1(モジュラス47)有り	
 G W D	チェックビット2(モジュラス47)有り	■
 G X A	チェックビット送信無し	■
 G X B	チェックビット送信有り	

	<p>先頭削除桁数設定 先頭削除桁数を設定する場合は、左記のマトリックスバーコードをスキャンした後、16進バーコード(本書 補足 A) を使って、先頭から削除したい桁数を 00~15 の範囲で設定します。先頭削除桁数を 03 に設定した場合、00054321 というデータは、54321 として送信されます。</p>	00
	<p>後方削除桁数設定 後方削除桁数を設定する場合は、左記のマトリックスバーコードをスキャンした後、16進バーコード(本書 補足 A) を使って、後方から削除したい桁数を 00~15 の範囲で設定します。後方削除桁数を 03 に設定した場合、00054321 というデータは、00054 として送信されます。</p>	00
	<p>最小読み取り桁数設定 最小読み取り桁数を設定する場合は、左記のマトリックスバーコードをスキャンした後、16進バーコード(本書 補足 A) を使って、01~56 の範囲で設定します。但し、1088 シリーズは、23 桁以上のバーコード読み取りには対応していません。</p>	04
	<p>最大読み取り桁数設定 最大読み取り桁数を設定する場合は、左記のマトリックスバーコードをスキャンした後、16進バーコード(本書 補足 A) を使って、01~56 の範囲で設定します。但し、1088 シリーズは、23 桁以上のバーコード読み取りには対応していません。</p>	00
	<p>ユーザーコード ID キャラクタ設定 ユーザーコード ID キャラクタを設定する場合は、左記のマトリックスバーコードをスキャンした後、16進バーコード(本書 補足 A) を使って、任意のキャラクタを設定します。@(40H)を設定したい場合、4→0→確定とスキャンします。</p>	



4.12.12 コード 11 の設定



コードバ -コード	説明	デフォルト
 G Z A	読み取り無し	■
 G Z B	読み取り有り	
 H B A	チェックイット(モジュラス 11)無し	
 H B C	チェックイット 1(モジュラス 11)有り	
 H B D	チェックイット 2(モジュラス 11)有り	■
 H C A	チェックイット送信無し	■
 H C B	チェックイット送信有り	
 B C E	先頭削除桁数設定 先頭削除桁数を設定する場合は、左記のコードバ -コード をスキャンした後、16 進バ -コード (本書 補足 A) を使って、先頭から削除したい桁数を 00~15 の範囲で設定します。先頭削除桁数を 03 に設定した場合、00054321 というデータは、54321 として送信されます。	00
 B C F	後方削除桁数設定 後方削除桁数を設定する場合は、左記のコードバ -コード をスキャンした後、16 進バ -コード (本書 補足 A) を使って、後方から削除したい桁数を 00~15 の範囲で設定します。後方削除桁数を 03 に設定した場合、00054321 というデータは、00054 として送信されます。	00

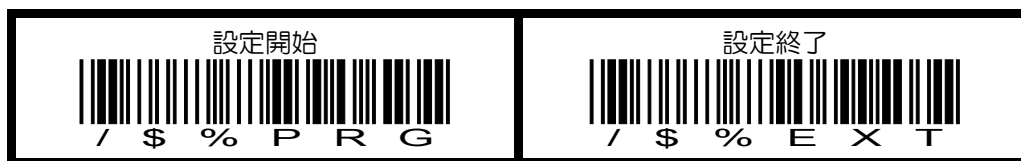
	<p>最小読み取り桁数設定 最小読み取り桁数を設定する場合は、左記のマトリックスコードをスキャンした後、16進マトリックスコード(本書 補足 A) を使って、01~56 の範囲で設定します。但し、1088 シリーズは、23桁以上のマトリックスコード読み取りには対応していません。</p>	04
	<p>最大読み取り桁数設定 最大読み取り桁数を設定する場合は、左記のマトリックスコードをスキャンした後、16進マトリックスコード(本書 補足 A) を使って、01~56 の範囲で設定します。但し、1088 シリーズは、23桁以上のマトリックスコード読み取りには対応していません。</p>	00
	<p>マトリックスコード ID キャラクタ設定 マトリックスコード ID キャラクタを設定する場合は、左記のマトリックスコードをスキャンした後、16進マトリックスコード(本書 補足 A) を使って、任意のキャラクタを設定します。@(40H)を設定したい場合、4→0→確定とスキャンします。</p>	

4.12.13 MSI/Plessey の設定

設定開始  / \$ % P R G	設定終了  / \$ % E X T
---	--

コードバ-コード	説明	デフォルト
 H E A	読み取り無し	■
 H E B	読み取り有り	
 H G A	チェックビット無し	
 H G B	チェックビット1(エラー10)有り	■
 H G C	チェックビット2(エラー10/10)有り	
 H G D	チェックビット2(エラー11/10)有り	
 H H A	チェックビット送信無し	■
 H H B	チェックビット送信有り	
 B C I	先頭削除桁数設定 先頭削除桁数を設定する場合は、左記のコードバ-コードをスキャンした後、16進バ-コード(本書 補足 A) を使って、先頭から削除したい桁数を 00~15 の範囲で設定します。先頭削除桁数を 03 に設定した場合、00054321 というデータ列は、54321 として送信されます。	00
 B C J	後方削除桁数設定 後方削除桁数を設定する場合は、左記のコードバ-コードをスキャンした後、16進バ-コード(本書 補足 A) を使って、後方から削除したい桁数を 00~15 の範囲で設定します。後方削除桁数を 03 に設定した場合、00054321 というデータ列は、00054 として送信されます。	00

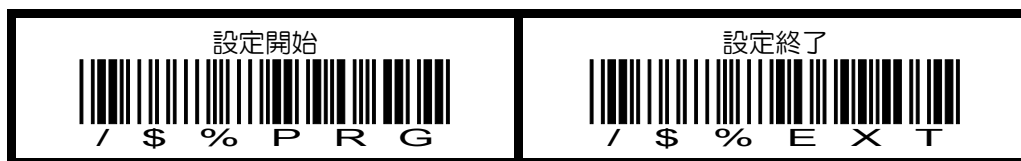
	<p>最小読み取り桁数設定 最小読み取り桁数を設定する場合は、左記のマトリックスコードをスキャンした後、16進マトリックスコード(本書 補足 A) を使って、01~56 の範囲で設定します。但し、1088 シリーズは、23桁以上のマトリックスコード読み取りには対応していません。</p>	04
	<p>最大読み取り桁数設定 最大読み取り桁数を設定する場合は、左記のマトリックスコードをスキャンした後、16進マトリックスコード(本書 補足 A) を使って、01~56 の範囲で設定します。但し、1088 シリーズは、23桁以上のマトリックスコード読み取りには対応していません。</p>	00
	<p>マトリックスコード ID キャラクタ設定 マトリックスコード ID キャラクタを設定する場合は、左記のマトリックスコードをスキャンした後、16進マトリックスコード(本書 補足 A) を使って、任意のキャラクタを設定します。@(40H)を設定したい場合、4→0→確定とスキャンします。</p>	

4.12.14 UK/Plessey の設定 ²

マツドバ-コード	説明	デフォルト
 H Q A	読み取り無し	■
 H Q B	読み取り有り	
 H S A	チェックイット無し	
 H S B	チェックイット有り	■
 H T A	チェックイット送信無し	■
 H T B	チェックイット送信有り	
 B C Q	先頭削除桁数設定 先頭削除桁数を設定する場合は、左記のマツドバ-コードをスキャンした後、16進バ-コード(本書 補足 A) を使って、先頭から削除したい桁数を 00~15 の範囲で設定します。先頭削除桁数を 03 に設定した場合、00054321 というデータは、54321 として送信されます。	00
 B C R	後方削除桁数設定 後方削除桁数を設定する場合は、左記のマツドバ-コードをスキャンした後、16進バ-コード(本書 補足 A) を使って、後方から削除したい桁数を 00~15 の範囲で設定します。後方削除桁数を 03 に設定した場合、00054321 というデータは、00054 として送信されます。	00

² モデル 1088 シリーズは、サポートしていません。

	<p>最小読み取り桁数設定 最小読み取り桁数を設定する場合は、左記のマトリックスコードをスキャンした後、16進マトリックスコード(本書 補足 A) を使って、01~56 の範囲で設定します。但し、1088 シリーズは、23桁以上のマトリックスコード読み取りには対応していません。</p>	04
	<p>最大読み取り桁数設定 最大読み取り桁数を設定する場合は、左記のマトリックスコードをスキャンした後、16進マトリックスコード(本書 補足 A) を使って、01~56 の範囲で設定します。但し、1088 シリーズは、23桁以上のマトリックスコード読み取りには対応していません。</p>	00
	<p>マトリックスコード ID キャラクタ設定 マトリックスコード ID キャラクタを設定する場合は、左記のマトリックスコードをスキャンした後、16進マトリックスコード(本書 補足 A) を使って、任意のキャラクタを設定します。@(40H)を設定したい場合、4→0→確定とスキャンします。</p>	

4.12.15 IATA の設定 ³


















マドバ -コード	説明	デフォルト
 H J A	読み取り無し	■
 H J B	読み取り有り	
 H N A	チェック イット無し	■
 H N B	チェック イット有り	
 H O A	チェック イット送信無し	■
 H O B	チェック イット送信有り	
 B C M	先頭削除桁数設定 先頭削除桁数を設定する場合は、左記のマドバ -コード をスキャンした後、16 進バ -コード (本書 補足 A) を使って、先頭から削除したい桁数を 00~15 の範囲で設定します。先頭削除桁数を 03 に設定した場合、00054321 というデータは、54321 として送信されます。	00
 B C N	後方削除桁数設定 後方削除桁数を設定する場合は、左記のマドバ -コード をスキャンした後、16 進バ -コード (本書 補足 A) を使って、後方から削除したい桁数を 00~15 の範囲で設定します。後方削除桁数を 03 に設定した場合、00054321 というデータは、00054 として送信されます。	00

³ モデル 1088 シリーズ は、サポートしていません。

	<p>最小読み取り桁数設定 最小読み取り桁数を設定する場合は、左記のマトリックスコードをスキャンした後、16進マトリックスコード(本書 補足 A) を使って、01~56 の範囲で設定します。但し、1088 シリーズは、23桁以上のマトリックスコード読み取りには対応していません。</p>	04
	<p>最大読み取り桁数設定 最大読み取り桁数を設定する場合は、左記のマトリックスコードをスキャンした後、16進マトリックスコード(本書 補足 A) を使って、01~56 の範囲で設定します。但し、1088 シリーズは、23桁以上のマトリックスコード読み取りには対応していません。</p>	00
	<p>マトリックスコード ID キャラクタ設定 マトリックスコード ID キャラクタを設定する場合は、左記のマトリックスコードをスキャンした後、16進マトリックスコード(本書 補足 A) を使って、任意のキャラクタを設定します。@(40H)を設定したい場合、4→0→確定とスキャンします。</p>	

Blank page

補足 A 16進バーコード表

16進バーコード表	
 % 0 0 0	 % 0 1 1
 % 0 2 2	 % 0 3 3
 % 0 4 4	 % 0 5 5
 % 0 6 6	 % 0 7 7
 % 0 8 8	 % 0 9 9
 % 0 A A	 % 0 B B
 % 0 C C	 % 0 D D
 % 0 E E	 % 0 F F
<p>確定</p>  % 0 K (最後に確定バーコードを読み取ります)	

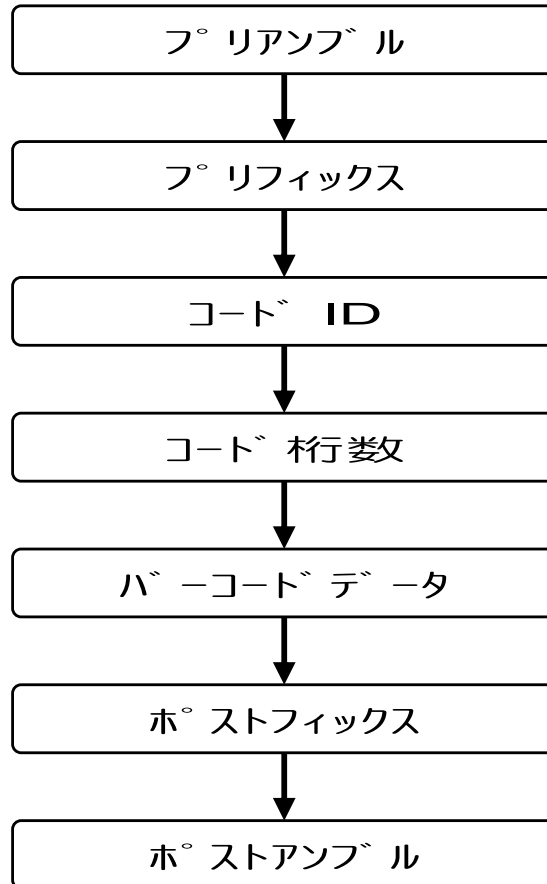
補足 B キャラクタ表

キーボードインターフェイスコード表									
	0	1	2	3	4	5	6	7	8
0			SP	0	@	P	`	p	
1	Up	F1	!	1	A	Q	a	q	
2	Down	F2	"	2	B	R	b	r	
3	Left	F3	#	3	C	S	c	s	
4	Right	F4	\$	4	D	T	d	t	
5	PgUp	F5	%	5	E	U	e	u	
6	PgDn	F6	&	6	F	V	f	v	
7		F7	'	7	G	W	g	w	
8	Bs	F8	(8	H	X	h	x	
9	Tab	F9)	9	I	Y	i	y	
A		F10	*	:	J	Z	j	z	
B	Home	ESC	+	;	K	[k	{	
C	End	F11	,	<	L	¥	l		
D	Enter	F12	-	=	M]	m	}	
E	Insert	CTRL+	.	>	N	^	n	~	
F	Delete	ALT+	/	?	O	_	o	DEL	

ASCIIコード表									
	0	1	2	3	4	5	6	7	8
0	NUL	DLE	SP	0	@	P	`	p	
1	SOH	DC1	!	1	A	Q	a	q	
2	STX	DC2	"	2	B	R	b	r	
3	ETX	DC3	#	3	C	S	c	s	
4	EOT	DC4	\$	4	D	T	d	t	
5	ENQ	NAK	%	5	E	U	e	u	
6	ACK	SYN	&	6	F	V	f	v	
7	BEL	ETB	'	7	G	W	g	w	
8	BS	CAN	(8	H	X	h	x	
9	HT	EM)	9	I	Y	i	y	
A	LF	SUB	*	:	J	Z	j	z	
B	VT	ESC	+	;	K	[k	{	
C	FF	FS	,	<	L	¥	l		
D	CR	GS	-	=	M]	m	}	
E	SO	RS	.	>	N	^	n	~	
F	SI	US	/	?	O	_	o	DLE	

補足 C データ送信フォーマット

下記にバーコードリーダーのデータ送信フォーマットを示します。送信は上のフィールドから順番に行われます。各フィールドの設定に関しては、本書「4. パラメータ設定」を参照ください。



補足 D RS232C シリアルコマンド

RS232C インターフェイスタイプのバーコードリーダーはシリアルコマンドに対応しています。
RS232C インターフェイスを通して、専用シリアルコマンドを送信することでバーコードリーダーの設定を変更することができます。

下記にシリアルコマンドフォーマットを示します。

シリアルコマンドフォーマット

<ESC> **CMD** <CR>

* <ESC>は、エスケープ 1BH

* <CR>は、キャリッジリターン 0DH

CMD には、取扱説明書のコマンドバーコード下にあるデータが入ります。
例えば、ブザー音量を 10、読取確認ブザー有りに設定する場合、

ブザー音量	BAC
音量	%01%00%OK
読取確認ブザー有り	CEB

となるので、送信コマンドは下記のようになります。

<ESC>BAC%01%00%OKCEB<CR>

シリアルコマンドで行った変更は、全て不揮発性メモリに保存されます。

参考

複数の設定コマンドを 1 つのコマンドパケットとして送信することができます。但し、コマンドパケット受信後、バーコードリーダーは設定内容を不揮発性メモリに保存し、リセット動作を行うため、復帰に約 5 秒程度必要となります。

補足 E トラブルシューティング

電源が入らない

- ケーブルは正しく接続されていますか？
- AC アダプタ (RS232C タイプ) は正しく接続されていますか？
- PC の電源 (キーボード / USB タイプ) は入っていますか？

バーコードを読み取らない

- 対象のバーコードの品質は悪くないですか？ 汚れたバーコード、劣化したプリンタで印刷したバーコード、複写したバーコードなど、品質の悪いバーコードは読取不良や誤読の原因となりますので避けてください。
- 対象のバーコード種を読み取れるように設定していますか？
- チェックゲイットが付加されていないバーコードに対して、チェックゲイット有りとして設定していませんか？
- 読取窓は汚れていませんか？

バーコードを読み取りづらい

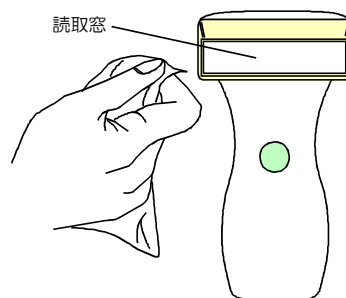
- 対象のバーコードの品質は悪くないですか？ 品質の悪いバーコードは読取不良や誤読の原因となります。
- 読取窓は汚れていませんか？

PC にデータが入らない

- ケーブルは正しく接続されていますか？
- バーコードリーダーの設定は間違っていないですか？
本書「4.2 バーコードリーダーの簡単セットアップ」を参考にバーコードリーダーの再初期化を行った後、PC の電源を再立ち上げしてください。

その他

- バーコードリーダーの読取窓が汚れていると、バーコードの読み取りに時間がかかったり、読めなくなる場合があります。定期的にアルコールなどを湿らせた柔らかい布で拭くようにしてください。



症状に変化がない場合は、弊社又はお近くの販売店までご連絡ください。

補足 F サンプルコード

コード 39



コード 39 (CD 付)



JAN コード 100%



JAN コード 80%



インターコード 2桁 5



インターコード 2桁 5 (CD 付)



コード 128



NW7



PDF417



